

「外国籍県民の人権」に関する研修講座の受講者の感想

1 人権教育指導者養成研修講座

令和元年 7月9日(火)

講話「外国籍県民の人権～在日外国人の現状と課題～」

IAPE(外国人児童生徒保護者交流会) 沼尾実 氏

- 外国につながる生徒を担当することが多くあったので、生徒や保護者の困り感がよくわかりました。自己肯定感を高めてあげることの大切さ、それを身近な大人である教員が行い支援しなければならないと思いました。
- 偏見や風評による差別によって人権を侵害されている人たちの状況や思いを知り、正しい理解のもと態度や行動に現していかなければいけないと思いました。また、そのような人権教育を行う必要があり、今後学校現場へ向けた研修を計画していきたいと思いました。
- 人との出会いを大切にして、「だれもが」「安心して」「豊かに」の視点で、出会った人から学び、学んだことを伝え合い、そして行動することは、差別をなくすことにつながるだけではなく、一人の人間として自分自身も豊かに生きることにもつながるということが心に残った。この視点を大切にしながら、実際に行動にうつせるようにしたい。

2 県立学校人権教育スキルアップ研修講座

令和元年 7月25日(木)

講話「外国につながるのある生徒への支援」

多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net) 高橋徹 氏

- 日本の閉鎖的な文化が外国人の子どもたちにとっては辛いのだろうと感じた。もっとアンテナを高く張り、孤立しないような支援が必要だと思う。
- 知らない事が多くあることがわかった。やはり正しい知識が必要である。それがなければ正しい判断、生徒へのサポートができないことがわかった。
- 外国につながるのある生徒がいると日本語指導にばかり目が行ってしまって彼らのルーツに対する自己理解を深めさせるまでには至っていない。そのことに気づくことができてよかった。悲惨な自殺等の事件を繰り返さぬよう、我々も十分に配慮したいと思う。

3 県立学校人権教育研修講座（人権教育担当者等）

令和元年 8月29日（木）

講話 「外国につながるのある生徒の人権」

多文化共生教育ネットワークかながわ（ME-net） 高橋清樹 氏

- 講演は実践的な話として身近に感じました。今後ますます外国につながる生徒が増える現実の中で、学校で起きる様々な課題について考える機会となりました。
- グローバル化に向けて、外国につながるのある生徒への学習の保障については他人ごとではなく、情報を収集して対応を考えていかなくてはならないと思いました。
- 講演はたいへん興味深く聞かせていただいた。外国につながるのある生徒が単純に一括りできるもではなく、支援の仕方も様々であることが理解できた。大変勉強になりました。
- 外国につながるのある生徒の苦しさが分かった気がする。とてもつらい内容だったが、取組まなくてはいけないと思う。

人権教育—神奈川県ホームページ

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t8d/hr_edu/top_page.html

- 「かながわ人権施策推進指針（改定版）」に基づく「人権教育の推進」
 - ・ かながわ人権施策推進指針（改定版）
 - ・ STOP！ザ・スクール・セクハラ
- 人権教育指導資料・学習教材の紹介
 - ・ 人権教育ハンドブック
 - ・ 指導資料・啓発資料等
 - ・ 人権学習ワークシート集
- 人権啓発ポスター（県・県教育委員会）